

講演

日時／平成27年2月4日(水)

会場／日本特殊陶業市民会館

名古屋市内9法人会合同講演会

どうなっているの？ 近年の異常気象

～集中豪雨・竜巻・大雪～

俳優・気象予報士

石原良純氏



動かない島の 上の雲

僕が生まれ育った神奈川県逗子市は、海辺の町、うちの親父と叔父の裕次郎が暮した町です。僕の子供の頃は、海辺の砂浜、そして、広い空と一緒に毎日でした。

また、父は、年に1度、夏休みにヨットに乗せてくれました。初めて乗ったときのことが痛烈に印象に残っています。

油壺のヨットハーバーから伊豆諸島の大島、利島、新島へと北から南に下っていくのですが、利島の上にひとつだけ雲が。子

どもの僕は、島の上の雲は南風に乗って油壺のほうに動いていくだろうと想像して雲を見ていました。しかし、風が動いているのに雲は動きません。そして、突然風向きが変わり、ヨットが反対側に傾きました。そんなとき「不思議だなあ、なぜ、あそこに雲があるのだろう」、「なぜ、いま急に風向きが変わったのだろう」と考えました。

お天気博士の森田正光さんとテレビ番組で一緒したときに、その不思議だと思った経験を話したら、「勉強して気象予報士になったら、その謎が科学として解明されますよ」と。そして、紹介されたのが『一般気象学』とい

う本でした。

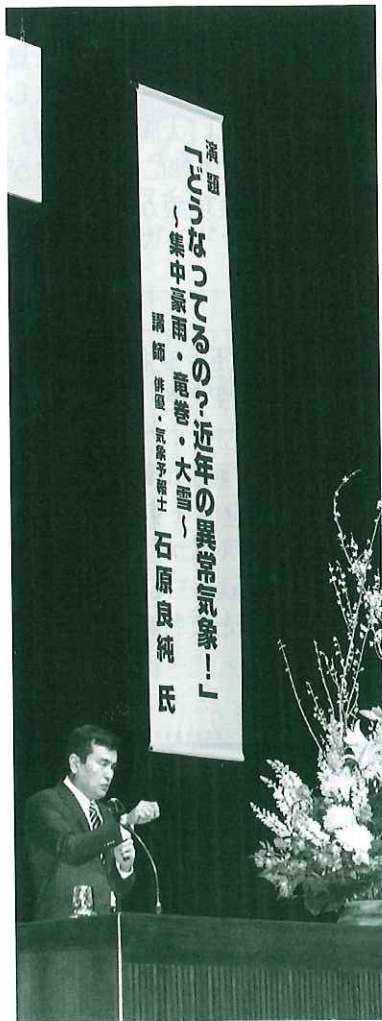
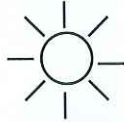
驚きました。気象学は空を見上げる学問だと思っておりましたが、第一章は『太陽系の地球』、太陽があり、地球に空気と水があるから気象現象が起こる、と知りました。

四季折々変わる 空の色

1996年に気象予報士に。ウェザーキャスターをするつもりはありませんでしたが、プロデューサーから「石原さんは空の話をされるとき、とても楽しそう。



日時 平成二十七年二月四日(水) 午後一時三十分
会場 日本特殊陶業市民会館 フォレストホール
名古屋市内九法人会合同講演会
演題 「どうなっているの？近年の異常気象！」
講師 俳優・気象予報士 石原良純氏



空の楽しさを観ている人に伝えてもらえませんか」と言われ、それならとお引き受けしました。

僕は、空の楽しさを伝えるには、美しい日本の空を実際に見てもらおうと考えた。

普段は空を見ない人も桜を話題にすると、桜並木を見上げついでに空も見てもらえる。

1月下旬、桜の開花予想が発表されますが、2月「まだ咲くわけがない」と言いながら桜の木を見上げ自然と冬の青空を見る。

3月桜のシーズン、柔らかい感じの青空になっていると気づくかも知れない。

5月、やっと稚内の桜が咲き、家の近くの桜も葉が出てきたなと思って空を見上げ、空気が暖かくなると空の色も変わるものだなと気づいてくれる。

僕は、楽しいことを通して空を見上げてもらう機会をつくることをやっていこう、と思ったのです。



人任せにしないで
自分の町を知ろう!

空の楽しさの裏返しが怖さ。それを実感したのは2011年9月です。

台風12号が潮岬をかすめるようにやってきた。紀伊半島で豪雨、新宮辺りで大水害、「土砂ダム」と報道されました。その後すぐに、台風15号。全国的に強風が吹き、都会の真ん中である渋谷の道玄坂でも大きな並木が倒れました。風の怖さを思い知った年でした。

近年の異常気象のキーワードとして出てくるのが地球温暖化です。

日本の自然は非常に細やかですから、データを見るまでもなく、みなさんも、日頃の生活の中で、自分の子どもの頃とは何かが変わってきているな、と思いませんか。

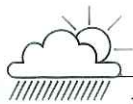
衝撃的だったのは、2007年8月16日、岐阜県多治見市と埼玉県熊谷市で74年振りに日



本最高気温の記録が40.9度に更新されました。多治見市の最高気温は、名古屋のヒートアイランド現象の影響もあるのではないかと、人間の経済活動が気候変動に影響しての記録ではないかと思えます。

4R運動(リサイクル:再生利用、リユース:再利用、リデュース:減量、リフューズ:断る)が盛んですが、次に考えるのは需要(エネルギー・水・食料)を大事に使うことと供給です。

原子力発電は賛否両論ありますが、僕は、自分たちの生活を守るために人任せにしないで、なにが起きているのかに興味を持ち、科学する気持ちを持つのが次のエコロジーだと思っています。



みな一人ひとりが
「科学する心」を。

これからさらにシビアな気象現象が増えると予想されています。防災情報に携わっている者として、どのように情報を伝えていくか思い悩みますが、阪神大震災のときのデータでは、7割の人が自分で自分の身を守ったそうです。まずは、自分の町のこと(成り立ちとか土壌)を知るとか、情報だけではなく、自分の目で確かめることが重要だと思います。

情報化社会です。

情報は人の暮らしを豊かにしてくれますが、反面溢れる情報でストレスになったり、目先のことだけに目がいてしまいがちです。そうしたときに自然に抱かれている自分を見いだせば、癒しになると思います。



皆様も一日に一度は空を見上げてください。

ぜひ、みなさん「空を見よう」

※ この記事は平成27年2月4日の講演を要約したものです。

文責:(一社)名古屋西法人会